

# NVC Monthly



## 寝屋川映像同好会会報

第27号(20110805)

発行 竹田 幸男



### 8月例会

暑いさなか、8月例会を開催、今月は来年の映像フェスティバルに向けての会場の選定、11月の第5回ビデオ作品発表会に向けての詳細日程の

詰めが大きな議題でした。終わり頃には大雨が降り出し、帰りはしばらく足止めに。

### 平成23年8月例会

#### 例会の窓

日時 平成23年8月5日(金)

13:30~16:30

場所 寝屋川市民活動センター 4階 こども部屋

出席者 新井 天野 石田 小笠原 佐伯 竹下 竹田 谷 田淵(9名)

欠席者(3名)(50音別 敬称略)

## 例会次第

### 1. 報告・連絡・協議事項

- (1) 来年の映像フェスティバル会場に関して(竹田さん)
  - ・先月の例会で検討した下記会場の比較検討(プロジェクターで説明)  
アルカスホール、市民会館小ホール、エスポアール多目的ホール、総合センター講堂
  - ・当同好会は先月の例会で、アルカスに決定し映像寝屋川の意向待ちであった。
  - ・アルカスは会場費が高い、キャンセル条件が厳しいなど難点があるも、総合評価は高い。映像寝屋川の意向も同様であり、最終的にアルカスで決定した。
- (2) 撮影会プロジェクトチーム(天野さん、小笠原さん)
  - ・次回撮影会は未検討であり、早急に映像寝屋川と連携して検討する。
  - ・風物だけでなく人物が絡むもの、物づくりに挑戦するもの、人で混雑しない撮影場所をとの意見あり。
- (3) 忘年会プロジェクトに関して(石田さん)
  - ・詳細は明日8月6日(土)映像寝屋川のチームメンバーと打ち合わせを行う。
- (4) 第5回ビデオ作品発表会の件
  - ・11月26日(土)を予定しており、計画的な推進が必要である。
  - ・9月例会では、出品候補作品の映写、修正等の打ち合わせ。
  - ・10月例会では、出品候補作品の映写、最終打ち合わせを終える。
  - ・11月例会では、出品作品完結版を各自提出。発表会実施要領の最終打ち合わせ。
  - ・11月松愛会会報へのPR原稿は、10月20日(木)頃までに作成要。
  - ・プログラムは10月末完成、会員は遅くとも11月例会でPR用として受け取る。
- (5) にぎわいフェスタ(第61回寝屋川市民文化祭)映像発表会
  - ・日時 11月4日(金)午後2時~4時
  - ・場所 アルカス・大ホール
  - ・出品締切 9月例会時<市の締め切りは 9月20日(火)>
  - ・居住地に関係なく「寝屋川市映像協会会員」として参加する。
- (6) 市民文化祭、ビデオ作品発表会、映像フェスティバルへの作品振り分け。
  - ・9月例会で打合せ。
- (7) 寝屋川市文化連盟会員研修会参加募集案内(竹田さん)希望者なし
- (8) 「NVC Monthly」の記事執筆者の件。
  - ・次回担当 小笠原さん。

## 2 . 作品発表

「ウグイス巢立ちの頃」 谷さん 5分14秒。

- ・作品の流れはスムーズで良い。
- ・常寂光寺の看板の揺れが気になる。
- ・ナレーションが聞き取りにくい。ビデオカメラから取り込むとよい。
- ・「しばらく景色を見ましょう…」ではなく、ここでは作者の気持ちをナレーションで表現してほしい。
- ・紅葉のシーンが唐突に出てくる感、見る人の気持ちを考えた説明が欲しい。
- ・映像が始まる前に5～20秒の黒帯をつけるようにしよう。

「虹の便り」 竹田さん 11分31秒。

- ・平成6年市民文化祭出品作品。
- ・VHS-Cで撮影した作品。当時はパソコン編集では無かった。

「真剣（世界に誇れる名刀） 真剣（匠の技）」小笠原さん 6分1秒

- ・前月の指摘に対応
- ・研ぎの場面に、師匠の説明の声を入れるとよい 入れた。が、口が動いていないとの指摘があったが、良いのではないかとの結論。
- ・最後のテキストはナレーションも加えた方がよい 対応したが、さらに画像をバックにしたテキストのないナレーションにしたほうが良い。
- ・撮影日が違うので作業着が違うのが気になる。
- ・やや、作品らしくなったが、「終わり」のフォントが味気ない。作品として完成させるのに細かい心使いを望む。

「ミニチュア着物になりました」 映像寝屋川 河尻さん 6分22秒

- ・大阪アマチュア連盟映像祭出品作品

## 4 . 次回例会

- ・9月2日（金）13：30～ 於：寝屋川市市民活動センター 4階こども部屋。
- ・カメラ担当：石田さん。



## おーい！ 老い(挑戦気力喪失)！

小笠原 邦雄

若い時はいろんな事に興味を持って挑戦してきたのに、年齢を重ねる毎に何事にも興味が失せてくることを恐ろしく思う。この「随想」を書くに当たって、これまでに興味を持って挑戦してきたことを振り返ってみた。

「モールス信号で会話」小学4年生の頃だったか、道路を隔てた向かいの友人と銅線を地中に埋めて、モールス信号で会話をした。電電公社の人に「道路をまたぐのは法律違反だ」と、銅線を引っっこ抜かれてお終いになった。

「実体配線図でラジオの組み立て」就職して2度目の給料で、5級スーパーの実体配線図の組み立てキットを買って、寮の部屋で2日ほど徹夜をして組み立てた。明け方に組み上がってスイッチを入れたところ、韓国放送が飛び込んできた時の感動は今も忘れられない。

「化学マジック」今も手元に残っている「化学マジック」の本の思い出。本屋で目にして衝動買いをした。会社の文化祭でマジックに挑戦だ！と、同期の技術の化け屋さんに薬品の購入を頼んだ。寮の部屋の端と端に薬品を離して置いた。エジソンの汽車の火事を思い出したので…。千人を超える人の前で成功裏に終えた。水（実はアルコール）を吐き掛けると火柱が上がったのが圧巻だったと思う。事故が起こりそうで今では挑戦できない。

「催眠術」催眠術を高校で見たことがある。術者の気合い一喝、10人位の生徒が一斉にこけてしまった。一人を対象にしたのでは感動はなかったと思うが、多人数が対象だったので記憶に残っている。それで、フォノシートで出来た催眠術の解説書を衝動買いして、自分でも試してみたが駄目。内容はハッキリ思い出せないが、「あなたは鳥になり、ゆっくりと羽ばたいて空に飛び立ちました。下のほうにお花畑が見えてきましたね。ゆっくりと降りて…」と言う様な物だったと思う。寮の友人を、従順な人、攻撃的な人、理屈屋などと分類して一人ずつ部屋に呼び込み、術をかける実験をした。羽ばたきそうになる人はいたが、成功はしなかった。今でも残念に思う。

「記憶術の実験」記憶術が一時はやったことがある。早速本を買い込み、人に50の単語を言ってもらい、それを順番を間違えず言っただけのけた。驚いていた姿を思い出して、今も笑みがこみ上げてくる。面白かったなあー！

「アマチュア無線」無線研究所に勤務している時、屋上のハムクラブの部屋を覗いた。ハロー！CQ、CQ、DX！なかなか面白そうだな！当時は資格試験があったので挑戦することにした。記述式だったのが選択式に変わった最初の試験だったので運よく合格

した。その後、無線のメール、パケット通信に挑戦し、四国の剣山山頂のアンテナ経由で広島まで通じた。が、残念ながら実用性には乏しく、結局は高野山のボランティア運営の、全国への送受信サービスを使った。

「フルマラソン挑戦」50歳を前にして、体力作りの為に当時流行中のジョギングを始めた。月刊誌のランナース、シティーランナーの2冊を購読。フルマラソンに挑戦することにした。まず、3時間連続で走り続ける。次に35キロを走破する。目標はキロ5分、3時間31分で完走とした。ベストタイムは3時間24分40秒だった。

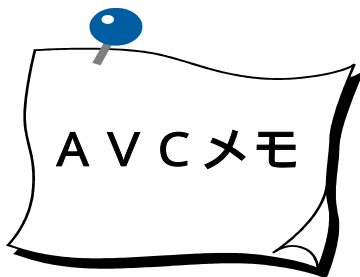
「月間、1122キロ走破」今でもやっているようだが、月刊誌ランナースが、10月を月間走り込み大会として自己申告で競う催しをしていた。ランナーとしての夢であるフルマラソンを3時間以内で走ることは、自分にとっては絶対に無理。ならばと、月間1千キロ以上走破を目指すことにした。目標は走れない日もあることを考えて、一日50キロを目標とした。これは自分にとっては荒行そのものであった。自分で決めたことではないかと言いつけさせたり、雨の中をベソをかきながら走ったこともあった。いい夫婦1122キロでお終いにした。走友には、フルマラソンで3時間を切る人、ウルトラマラソンで100キロ走破、200キロ以上走破した猛者が何人かいるが月間1千キロを走破した人はいない。私の勲章である。すぐ後に、千日回峰を死臭漂う断食を終え達成された和尚様の様子が放映された。私はたったの一月、和尚様は千日をもと思うと涙が止まらない、大きな感動を頂いた。

「パラグライダーで高々度フライト」空を飛んでみたいとの強い欲望を抑えきれず、パラグライダーに挑戦した。大江山で天の橋立の潮風を向かい風にテイクオフ、200メートル位の高々度フライトに成功。無事ランディングしての、仲間の祝福の握手が忘れられない。50万円の機体を購入した。パイロットの資格をとっていた矢先、再度、高々度フライトに挑戦した時、樹木の茂る山の斜面に飛べとの指導者の指示。木の中に沈すると思ったが、無線で誘導する指導者には絶対服従と聞かされていたので指示に従った。案の定、沈したではないか！あわや大怪我かと思ったその時、一陣の風が吹き、自分でも最高と思える操縦で木の間を抜け出ることができた。子育て中の私としては、この指導者の下ではこれ以上続けられないと考え、結局、購入した機体では一度もフライトしなかった。子育ての終わった今、高々度フライトでのビデオ撮影は、是非、挑戦してみたい夢である。

おーい！ 老い！ 最近は何事にも強い興味を持たず、一目散に飛び込んで行きたいと思う物が無くなってしまった。これが老いというものかと虚しい気持ちである。飽きっぽい性分が災いして、満足行くまで極められた物が何も無いのが悲しい。映像同好会に参加させて頂いているが、編集のさわりは判ってきた気がする。若ければこんなものかと満足して止めていただろう。私にとってのビデオ撮影・編集は、目の前の出来事、状況を記録すること。仲間を撮影して簡単に編集し感動を分かち合うことを目的にしており、

芸術的な作品作りは、私には別次元のことと、思っていることに最近気づかされた。

文章、静止画、動画と相手に感動を伝える手段としては、難しくなってくる。「秋立ちぬ！」と文章に書けば、読み手はいろんな情景を思い浮かべる。組み写真（静止画）に「秋立ちぬ！」と、文字を入れた場合、思い浮かべる情景は限られるだろう。動画はどうだろう？思い浮かべる情景は非常に限られる。一筋縄ではいかない難しい代物である。そんな事を考えているこの頃である。求められている作品作りには大いなる研鑽が必要である。



## お引っ越しはお早く Part 2

竹田 幸男

前は主として映像データの引っ越しについてお話ししましたが、パソコン用のデータについても同じような事情が迫っています。フロッピーディスクも、皆さんの知っているのは3.5インチですが、以前は8インチというものがありまして容量は、あの大きな図体の割に最初128kBぐらいでは無かったかと記憶します。それが5インチ（256kB）になり、次は3インチと3.5インチとで2陣営に分かれて争っていた、という記憶があります。最後は3.5インチに落ち着き2DDの720kBから始まり2HDの1.44MBにたどり着いたと思います。NECのフォーマットでは1.2MBであったように記憶します。

今やこのフロッピーが死にかけています。いや、死んでいます。パソコンを買っても差し込み口が無いのです。パソコンのドライブが「C」から始まるのは何故かご存じですか。それは曾てフロッピー用として「A」ドライブと「B」ドライブが用意されていました。フロッピー間でデータのコピーをするために2つのドライブを設けたのです。やがて1つのフロッピードライブ「A」が残りませんでした。コピーはいったんハードディスクドライブにためておいてできるようになったのです。そのうちに「A」ドライブも消えて久しいこの頃となりました。

以前はちょっとしたソフトウェアのサンプルやカタログなどはすべてフロッピーでした。ワープロソフトやビジネスソフトを買うと、20枚、30枚というフロッピーが入ったどっしりとしたパッケージに、値打ちものを買った！ という満足感に浸れたものです。今やそれがCDに、さらにDVDと移り変わり、世の進歩に驚くばかりです。

驚いてばかり居られません。今に中身が見られなくなるのです。少ない容量とはいえ、だいじな中身が残っているかもしれません。内容を確認しながら早めの引っ越しをしましょう。

